

令和6年度NEXT STEP工房活動費支援事業 採択一覧

No.	団体名	プログラム名	ページ
1	FoFC(Future of Filipino Children)	フィリピンの子ども達に文房具を送ろう	2
2	動物介在学研究室	伯鈴(はくりん)と学ぶチャグチャグ馬コ	3
3	工学GIRLS	なぜ?という力を育てよう! 公立学校サイエンス教室実施プロジェクト	4
4	岩手大学経済研究室水産部	岩手県三陸地域の水産資源活用による漁村振興	5
5	岩手大学クラフトビール部	ビール麦のブランド形成プロジェクト	6
6	岩手大学クラフトビール部	ビール麦の産地形成プロジェクト	7
7	いわてi-Sakeプロジェクト	日本酒と若者を繋ぐ架け橋プロジェクト	8
8	自然史探偵団	自然史標本の保存・技術者育成に向けた活動と博物館施設の活性化	9
9	同じ釜の匂いを食う2024	釜石からの贈り物 ～浜のお母さん達と作る学食に向けたサクラマス料理～	10
10	三陸委員会ここより	三陸の未来をともにつなぐ	11
11	岩手大学卓球部	卓球でつながる!	12
12	岩手大学彩景プロダクション	岩手の歴史ロマンを発信!! 骨寺村荘園遺跡の魅力をPR広報プロジェクト	
13	さんもり ～盛岡のぬくもりで盛り上げる～	盛岡城跡公園機運醸成プロジェクト	
14	E=Wind Project(EMSC)	E=Wind Project	14
15	らくのうの夢	チーズケーキを通して岩手県の酪農の実情を伝える	15
16	岩手大学NEO	陸前高田・米崎町観光マップ作ろうプロジェクト	16
17	LiveStock研究会	教えて! ジャージーさん🐄～実験牛から次世代の畜産～	17
18	+DESIGN	岩手県内のデザイン価値の向上と課題解決人材の育成	18

5月～7月

- ・小学校へご提案
- ・授業
- ・計画



一緒に貧困問題を学びました

小学校の子供たちに、フィリピンの貧困地域の現状を知ってもらうため、授業を行いました。授業では、「貧困地域に住む人々はどういった生活をしているのか」、「どうすれば彼らを笑顔にできるか」を子供たちと一緒に考えました。授業を通して、貧困問題とボランティア活動について、子供たちの関心を高めることができました。

実際にこんなことを学びました

貧困に生まれた子供の生活

スラムと呼ばれる貧困層に生まれる
小学校に入学
最や姉が生まれると食べられる
ご飯の量が減少
が貧困
学費が払えず学校をやめる
お金を稼ぐために母親の手伝いで
ごみ拾いを始める



クイズ③

みんなこんにちは
フィリピンの貧困地域に住む子供たちが十分な教育を受けられない理由は何でしょうか？
また、その解決方法を考えよう！

岩手大学教育学部附属小学校
ボランティア委員会

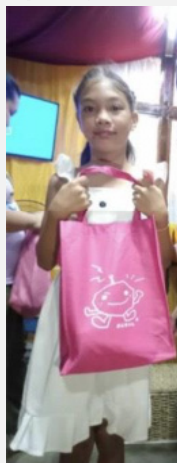
× FoFC

合同企画 ～フィリピンの子ども達に物資を届けよう！～

気持ちの良い挨拶と共に！！



9月9日（月）から9月13日（金）までの期間、ボランティア委員会の子供たちと回収活動を行いました。全校に向けて回収を呼びかける放送を行ったり、大きな声で協力をお願いしたりしました。その結果、多くの物資を集めることができました。子供たちと一緒に活動したことで、ボランティアのやりがい共有することができました。



10月～1月

- ・梱包、輸送
- ・ご報告



数千点集まりました！

鉛筆が1939本、消しゴムが223個、筆箱が44個、手提げ袋が256袋、古着が853着集まりました。これらは、12/25にフィリピンの貧困地域に住む子供たちのもとに届きました。プレゼントを受け取った子供たちはとても喜んでおり、感謝の言葉がメールでたくさん届きました。皆さんの温かい心が、フィリピンの子供たちを笑顔にしました。

PLAN DO CHECK

ご協力ありがとうございました！

FoFC代表：池谷駿

- ・斎藤悠久
- ・金子淳
- ・渡邊人和
- ・佐々木健瑠
- ・青沼歌穂
- ・小山裕

岩手大学

NEXTSTEP工房 FoFC

FIRST STEP 伯鈴（はくりん）と学ぶチャグチャグ馬コ

動物介在学研究室

【事業概要】

岩手県は古くから馬産地として知られ、ヒトと馬が密接な関係を築いてきた。田植えが一段落した6月に、農耕馬を着飾って滝沢市鬼越蒼前神社から盛岡八幡宮までの14kmを行進するチャグチャグ馬コは伝統的な馬事文化の一つである。しかし近代化に伴い、農耕馬の仕事が機械化し、飼養頭数が減少したことから、チャグチャグ馬コの参加頭数も減少している。

本事業では農耕馬を飼い、チャグチャグ馬コに参加することを通して、若い世代の学生に農耕馬や馬事文化の魅力を知る機会を設け、若い力で岩手の馬事文化を継承することを目的とした。



農耕馬の伯鈴と研究室メンバー



伯鈴の馬房 朝の掃除前(左)夕方の掃除後(右)
朝のエサ作り、放牧に出した後の馬房の掃除、夕方のエサ作りなどで1日3時間程度の作業を研究室メンバーで手分けして行った。



チャグチャグ馬コの装束で着飾った伯鈴



チャグチャグ馬コのふれあい会場の伯鈴



ふれあい会場まで行進している伯鈴

伯鈴は以前から左後肢の歩様異常があったが動物介在学研究活動の中心的な役割を担っていたため、2024年2月9日から研究室で飼養管理を開始した。放牧によるリハビリを行い6月8日のチャグチャグ馬コにふれあい馬（3km行進）として参加した。しかし、8月末に左後肢を痛がり起立困難となり、治療の甲斐なく9月18日に死亡した。7か月間の伯鈴との生活から、馬の扱い方や飼養管理技術を学び、大きくて温厚な農耕馬の魅力を実感することができた。今後も若い力で岩手の馬事文化を盛り上げ、継承に繋げる活動を続けたい。

工学GIRLS活動報告

木下なつめ、鷹場里奈、佐々木莉乃、高橋綾乃、嶺井美優、佐藤まお



工学GIRLSとは？

- ・岩手大学理工学部的女子学生のみで構成されている**理系女子団体**。
- ・発足は、平成・年。
- ・現在は、学部一年から修士2年までの合計**37名**で活動している。

活動の目的

- (1)理工学部を**女子学生にとって過ごしやすい環境**にすること。
- (2)理工学部の魅力を発信し、**理工学部**に**女子学生を増やしていく**こと。

今年度の活動

●内容

県内外の公立高校へ訪問し、大学紹介やサイエンスショー、相談会を実施。

他にも児童館等で18件のサイエンス教室を開催！
大阪公立大学にて他大学的女子学生団体との交流会も開催！
今回は採択事業である学校訪問について記載↓

●日程・訪問先・実施内容の詳細

-**盛岡市立高等学校**
 - ・大学紹介 ・サイエンスショー
(炎色反応、超伝導、空気砲)
-**宮城県立古川黎明中学校・高等学校**
 - ・大学紹介 ・サイエンスショー
(超伝導、液体窒素)
-**宮城県仙台三桜高等学校**
 - ・大学紹介 ・相談会
-**岩手県立宮古高等学校**
 - ・大学紹介 ・相談会
-**岩手県立水沢高等学校**
 - ・大学紹介
 - ・サイエンスショー
水素の力でゲーム、炎色反応、黒い炎、サーモグラフィーで電球比較、二酸化炭素による水の色変え実験、空気砲)



参加者の声（アンケートの結果）

- ・理工学部に対して、**難しいことを学んでいそう、堅苦しい**などのイメージがあったが、工学GIRLSの話を聞いて**楽しそう**と感じた。
- ・大学受験や研究室配属など、高校生の時点ではまだよくわからないことを詳しく聞けてためになった。
- ・大学生のリアルな1週間のスケジュールを見て、学年やコースごとに全く忙しさが異なることに驚いた。
- ・理工学部は男子が多く女子は少ないというイメージを持っていたが、**自分と同じ理系的女子学生もたくさんいることを知り、うれしくなった**。

活動の成果

- ・**理工学部に対してプラスなイメージ**をもってもらえた。
- ・大学・大学院で何をしているのか、なぜ大学院に進学する必要があるのか等、**現役大学生視点**で、高校生にとって有益な話ができたと。
- ・リアルな大学生の実情をお話して、高校生たちが大学生活をイメージするきっかけにできた。

今後の展望

- ・来年度は高校だけでなく、**小中学校への訪問**も行いたい。
- ・今年度に訪問させていただいた学校へも引き続き訪問したい。
- ・現在、附属小中学校への訪問を試み、依頼している。
- ・県内の公立小中学校への訪問も教育委員会へ打診中。

SNSの紹介

当団体では、Instagram、X、HPなどを活用し、活動の報告、イベントの告知を行っております。

2024年度の活動の様子もたくさん載せています。よろしければご覧下さい！

・ Instagram



@IWATE_KOUKAGUGIRL

・ X



・ HP



経済研究室水産部 -ウニ蓄養-

活動背景

01

①磯焼け

地球温暖化による海洋環境の変化により、ウニが休眠せず、海藻の芽が食べ尽くされている。

→ウニの実入り悪化、アワビなどの漁獲減少

②漁村存続の危機

震災以降、漁業者の収入減少と高齢化が進行し、深刻な人手不足に陥っている。

③ウニ蓄養の普及の遅れ

宮古市田老地区では、閉鎖循環式のウニ蓄養の導入によって、これらの課題に挑戦している。

→しかし、まだ実現可能性が不透明で、各漁師宅への普及までは至っていない。

目的

02

学生の手でウニ蓄養を内陸で実現し、田老でウニ蓄養の普及が進むきっかけをつくる。

- ・閉鎖循環式蓄養の実証実験
- ・蓄養マニュアルの作成
- ・販路の開拓



取り組み

03

①陸上閉鎖循環式のウニ蓄養の実践

光を当てる量を調節することで夏が来ると錯覚させ、実入りの良い状態にする技術が確立されている。

昨年度

- ・飼育環境を整備、ウニを30個入れて蓄養を実施。

今年度

- ・ウニを64個に増やし、蓄養を実施。(約4ヶ月間)
- ・5回にわけて実入りを計量→報告書作成

②マーケティング検討

昨年度のヒアリング調査でつながりを持った星川魚店店主を研究室に招き、飼育環境やウニの身入りを実際に見ていただき、アドバイスを頂いた。



結果

04

①ウニの実入り・食味

- ・日照時間のコントロールと継続的な給餌によって、実入り率の向上を確認。
- ・まだ味にばらつきがあるが、魚店からの評価は良好。

②飼育環境

- ・飼育数やエサの投入量の増加に伴い、水質の悪化が顕著に表われた。
- ウニにストレスがかかり、大量死のリスク大

展望

05

蓄養実証での課題

- ◎ 死なせずに蓄養するには(ある程度)成功。
- × 実入り・質的にマーケティングのサンプルの段階には至っていない。

蓄養ウニ普及の段階

- ・蓄養マニュアルを作成中。
 - ・鮮魚店・飲食店などとの関係性構築。
- 活動の場をより現場へ





岩手大学クラフトビール部

-NextStep工房2024年 ビール麦のブランド形成プロジェクト-

■社会課題解決 ■地域経済 ■農業 ■クラフトビール ■ソーシャルデザイン

団体紹介



学内カンパニー
岩手大学クラフトビール部

共同代表 山端脩暉 佐藤稜

活動内容 ビール原料の生産支援
商品企画、産地のアップデートなど

設立 2021.04 (4年目)

メンバー 13名 (2024年度)

活動地域 盛岡市, 紫波町, 花巻市, 陸前高田市



ビール麦農家さんへの調査実施

県産原料による社会的価値の商品価値化に向けた調査・勉強会実施



生産農家さんに対するヒアリング実施

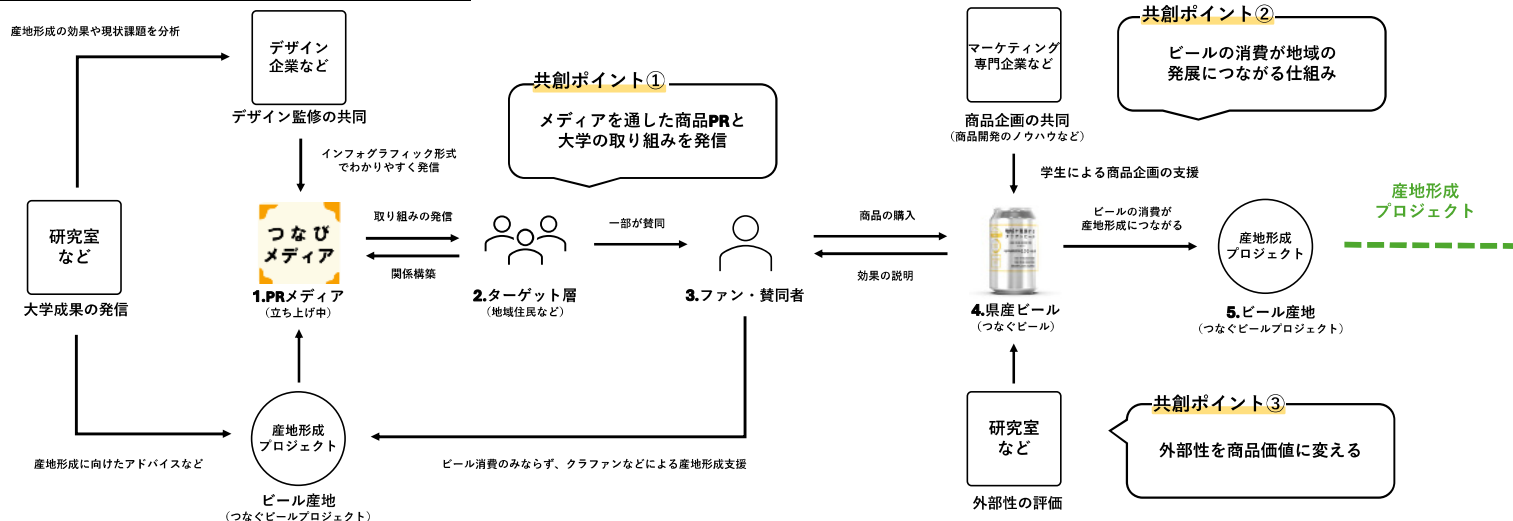


団体内での勉強会実施

・県産原料を使用すると輸入時と比べてさまざまな社会的価値！
→地域経済効果や農地保全, CO2削減効果

これらの「外部性」を「商品価値」に変える商品企画の実践

「消費者参加」の仕組みづくり



メディアの立ち上げ

プロジェクトメディアの立ち上げ
・「つなぐビール (県産ビール)」のPR
・大学の取り組みや学び, 現状課題の発信



生産現場の様子



現状課題や理論の発信



品種改良など発展に向けた取り組み紹介⁶

今後の展開
・デザイン企業などとの連携
・地域企業との連携
→専門知識が必要なため研究室との連携も予定

プロジェクトの位置付け

ビール産地形成に向けた6つの課題

1. 産地の生産支援
・岩手県内でのビール生産体制の構築
・最適な産地基盤の構築
 2. 産地運営のスマート化 (省力化)
・ネットワーキング, 中間支援活動の省力化
 3. 県産ビールの価値向上
・社会的価値の商品価値化
・県産ビールおよび原料のブランド構築
 4. プロジェクトのPR, メディア運営
・消費者参加の促進, 取り組みの発信
 5. 県内製麦拠点の導入
・岩手県内～東北圏における中規模製麦拠点の導入
 6. 生産管理のスマート化 (省力化)
・ビール麦の生産管理の省力化
- マーケティング班プロジェクト範囲 (今回の報告範囲)
- 産地形成班プロジェクト範囲
- 学内カンパニー, AICプロジェクト範囲

商品企画プロジェクト

しかし, 共同している企業さんから許可がおりず難航...



協働している企業さんとの打ち合わせ実施



他大学との共同での商品企画イベント

・外部に公開不可能な企業データが多かったとの説明
→秘匿データの取り扱いや緻密な打合せが必要だった...

・ただし他大学との連携や岩手県庁との連携構築を達成
→意義のある取り組みだと考えているため今後も継続を予定

今後のプロジェクト展開

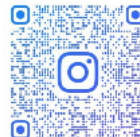
今後のプロジェクト

- ① プロジェクトメディアの運営
・産地形成の意義を発信
・商品PRと大学の成果や学びを発信
- ② 社会的価値の商品価値化
・県産原料による外部性を評価
→県産ビールの価値向上につながる
- ③ 消費者参加の仕組みづくり
・ビールの消費を通して産地形成に参加
→より多くの主体を巻き込んだ共創, ソーシャルアクション

つなぐビールプロジェクトの取り組みを随時発信!



Twitter (X)



Instagram

専門性や人手不足が課題
・外部人材や企業, 大学研究室との共創を増やしたい!



岩手大学クラフトビール部

-NextStep工房2024年 ビール麦の産地形成プロジェクト-

#社会課題解決 #地域経済 #農業 #クラフトビール #ソーシャルデザイン

団体紹介



学内カンパニー
岩手大学クラフトビール部

共同代表 山端脩暉 佐藤稜

活動内容 ビール原料の生産支援
商品企画、産地のアップデートなど

設立 2021.04 (4年目)

メンバー 13名 (2024年度)

活動地域 盛岡市, 紫波町, 花巻市, 陸前高田市



信州ワインバレーの調査

ビール産地形成に向けた参考事例として「長野県信州ワインバレー」の調査※
(信州ワインバレー：長野県のワイン産業のクラスター政策)

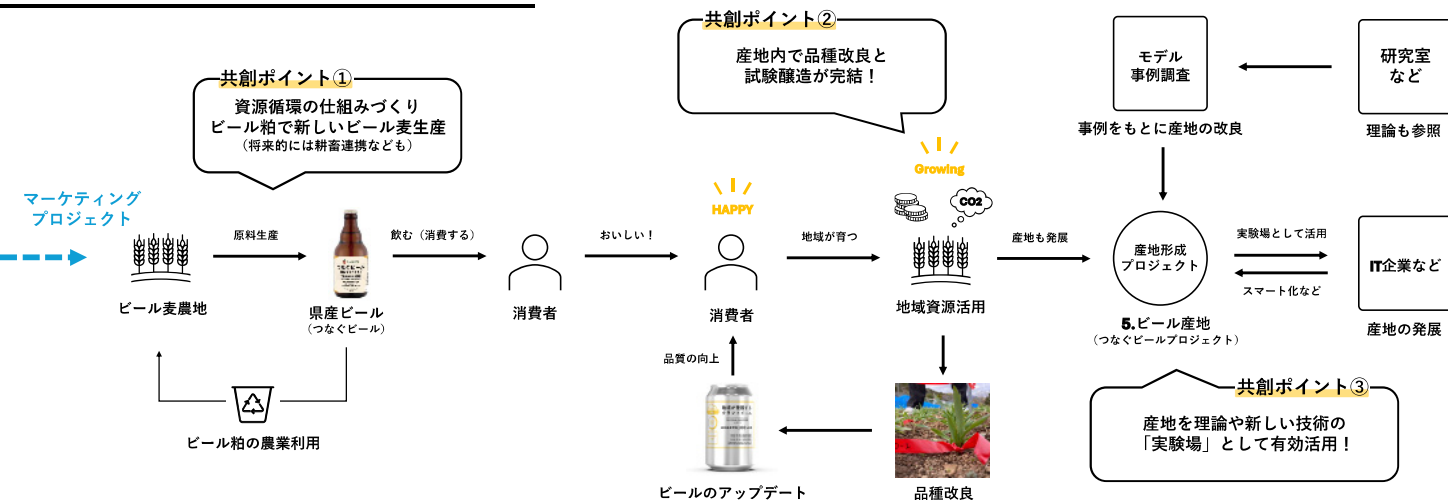


調査の成果

- ・ワイン生産者育成を行う「ワイン大学」など先進的な取り組み
- ・PRやブランド構築においてクラスター形成が役立っているとの声
- ・一方で規模が大きく、現場の声を拾えていなかったり、意思決定が困難
- 産地形成は「適正」な規模であることが重要！

※オンラインヒアリングと現地調査を実施し、現地調査は自費での実施

「ビール産地」による循環と発展の仕組み



生産支援活動の実施

さらに花巻市での種子生産

今年も継続して陸前高田市, 紫波町での生産支援活動を実施



- ・総生産量5.2haまで拡大
- ・東北農研と共同した品種改良も実施
- ・陸前高田市における保管, 乾燥設備の導入着手

ビール産地形成に向けて順調に生産規模拡大！

プロジェクトの位置付け

ビール産地形成に向けた6つの課題

1. 産地の生産支援
 - ・岩手県内でのビール生産体制の構築
 - ・最適な産地基盤の模索
 2. 産地運営のスマート化 (省力化)
 - ・ネットワーキング, 中間支援活動の省力化
 3. 県産ビールの価値向上
 - ・社会的価値の商品価値化
 - ・県産ビールおよび原料のブランド構築
 4. プロジェクトのPR, メディア運営
 - ・消費者参加の促進, 取り組みの発信
 5. 県内製麦拠点の導入
 - ・岩手県内～東北圏における中規模製麦拠点の導入
 6. 生産管理のスマート化 (省力化)
 - ・ビール麦の生産管理の省力化
- マーケティング班プロジェクト範囲
- 産地形成班プロジェクト範囲
(今回の報告範囲)
- 学内カンパニー, AICプロジェクト範囲

フィッシャーマン・ジャパンの調査

宮城県石巻市のフィッシャーマン・ジャパンへのオンラインヒアリングを実施
(フィッシャーマン・ジャパン：宮城県の漁業をテーマにした産業クラスター)



調査の成果

- ・産地形成は「ゴール」「枠組み」「ロードマップ」の策定が重要
- ・中間支援組織による異業種連携の促進がイノベーションにつながる！
- ・産地をあたらしい技術や理論の実践の場として活用するのが効果的

今後の展望

今後のプロジェクト

- ① ビール産地をベースに「共創の場」をつくる
 - ・産地をベースにしたビジネスエコシステム
 - ・産地をあたらしい取り組みの実験場として活用
- ② 消費者参加型の産地形成の促進
 - ・ビールを飲むことで地域が発展する仕組みづくり
- ③ 産地形成(運営)のスマート化を实践
 - ・産地形成の省力化を实践
 - ・他地域, 他産業への波及を目指す

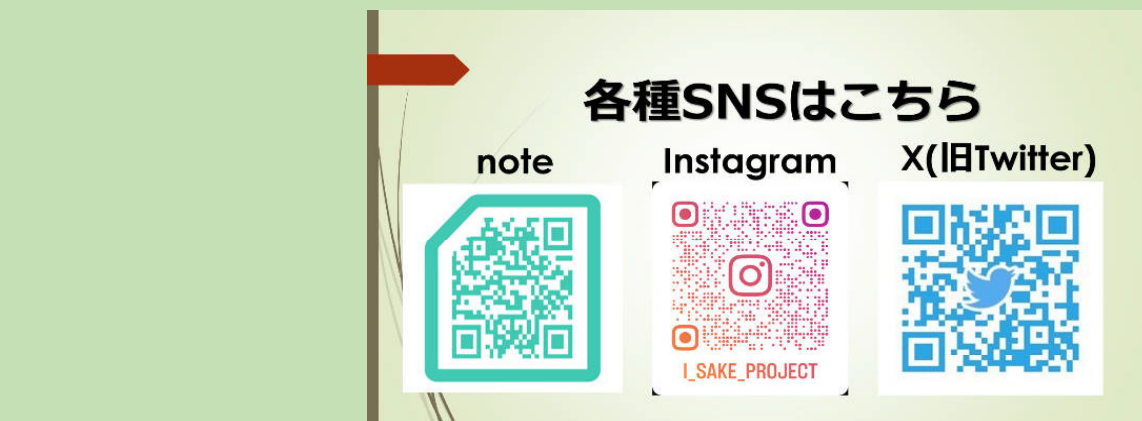
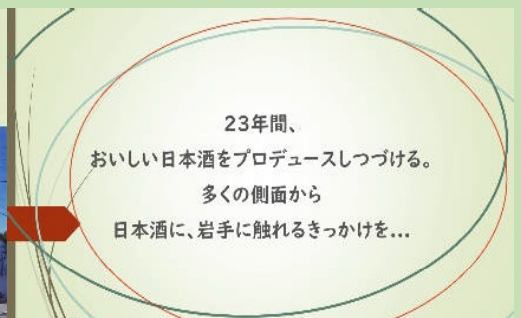
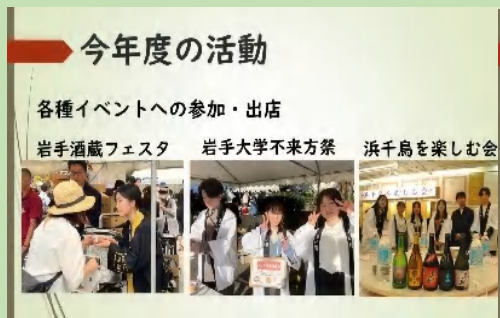
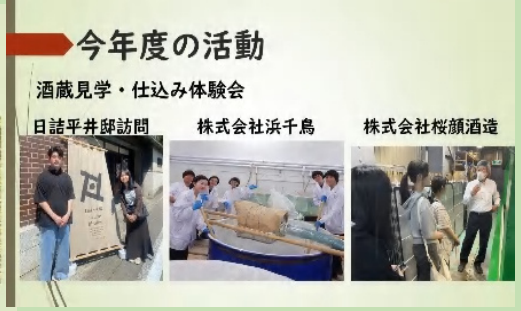
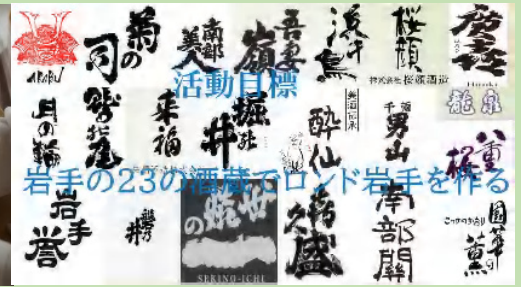
専門性や人手不足が課題
・外部人材や企業, 大学研究室との共創を増やしたい！

2025年4月上旬
ベアレン醸造所より新発売



※新商品のラベルデザインは異なります

NEXT STEP工房 令和7年度最終報告会 いわてi-Sakeプロジェクト



自然史標本の保存・技術者育成に向けた活動と博物館施設の活性化

自然史探偵団

目的

全国的に見ても豊かな自然を有する岩手県において、その自然史を後世に残していくためには標本作製が有効である。しかし岩手県には自然史標本を扱う博物館が少ない。この原因として、標本化に必要な専門的な知識・技術を保有する人材が少ないこと、小規模な博物館では資料化に充てられる予算が少ないことが挙げられる。

この問題解決の一助となるため、標本作成技術の共有と研鑽、地域住民を対象とした博物館来訪の促進を目的として活動している。

活動内容

(1) あそんでまなぼう！うしはく探検隊 2024

概要

奥州市牛の博物館が例年実施する子ども向けワークショップ企画で、複数団体が参加した。我々自然史探偵団は、ウシの臓器を体験的に学ぶことが出来るカード作製のワークショップを実施した。今年度は開催10周年であり、参加人数は親子合わせて約200人となった。

日程・場所

2024年11月2日 奥州市牛の博物館

内容

「みえたりきえたり！？うしのぞうきカード」と題して、ウシの臓器を楽しく学ぶことが出来るカード作製を行った。始めに、胃や心臓、肺などのウシ臓器の位置関係についてクイズを交えて説明を行い、その後カードを作製した。作製したカードは持ち帰り、家庭で繰り返し遊ぶことが出来る。このワークショップへの参加を通じて地域住民の博物館来訪を促進するとともに、博物館施設の活性化に寄与することが目的である。

また、当団体は本イベントへの参加機会を例年いただいております。イベントの開始初年度から継続して運営に携わっていた。それに対し、奥州市牛の博物館より感謝状をいただいた。今後も本イベントへの参加を通じて地域活性化貢献の役割を果たしていきたい。



感謝状

奥州市牛の博物館 様
自然史探偵団 様
貴団体の、11月2日の「あそんでまなぼう！うしはく探検隊2024」の開催に際し、大変お世話になりました。当日は、子どもたちから大人まで、多くの方々が参加され、大変盛り上がりました。また、当日は、子どもたちから大人まで、多くの方々が参加され、大変盛り上がりました。また、当日は、子どもたちから大人まで、多くの方々が参加され、大変盛り上がりました。

2024年11月2日

奥州市牛の博物館
代表 奥田 大輔

(2) 第15回南三陸子ども自然史ワークショップ 2024

概要

南三陸ネイチャーセンター友の会主催、南三陸町教育委員会が後援として毎年開催される、未就学児～小学生を対象としたワークショップ。

日程・場所

2024年7月15日 南三陸自然史環境活動センター

内容

「ホヤホヤヨーヨー」と題したコーナーの企画・運営。まず簡単なクイズを通して、子供たちにホヤの生態や体の中のしくみを知ってもらふ。さらに、ホヤを模したオリジナルの水風船「ホヤホヤヨーヨー」を工作するという体験を通して、南三陸に生息する生物の1つであるホヤへの理解を深め、より身近な存在に感じてもらふことを目的とした企画である。

当日は約100人の子供たちが「ホヤホヤヨーヨー」の企画に参加、ワークショップ全体として大成功に終わった。



(3) 解剖自主練習会

概要

奥州市牛の博物館が主催する地域でのワークショップで、団員は自身の標本作りの技術の研鑽のために自主的に参加している。

日程・場所

2024年5月12日 おだき文化財整理室

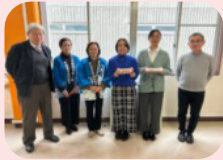
内容

交通事故や衝突事故で亡くなった哺乳類、鳥類を用いて標本作り練習をする。作った標本は牛の博物館に収集される。

反省と課題

目的である地域住民の博物館来訪の促進について、ワークショップへの参加によって努めている。しかし、参加者の年齢が多様であるため、どこまで踏み込んだ内容にするのかが課題となっている。

また、前年度の課題にもあった他団体との交流・連携は未だ十分とは言えない。活動の充実を図り、団員の知識・技術を向上させるためにも引き続き連携をとっていきたい。



令和6年度・・・・・・採択事業 同じ釜の匂を食う・・・・活動報告



「同じ釜の匂を食う」とは

- ・・・・年度から活動開始
- ・釜石キャンパスに所属する学生が主体
- ・釜石市内の漁協女性部さんから釜石の水産物を使った料理を教わっている

今年度の活動

プログラム名

- ・「釜石からの贈り物～浜のお母さん達と作るサクラマス料理」をテーマに活動

関係機関

- ・釜石湾漁協平田女性部、株・セカリフーズ、岩手大学生協学生食堂、釜石市水産農林課の皆様など多くの方々にご協力いただいた

活動目的

- i. 魚食普及、県産県消、健康の推進
- ii. 釜石キャンパスと上田キャンパスの交流
- iii. 釜石キャンパスの活動の周知
- iv. 釜石の特産品の普及活動
- v. 漁協女性部さんとの交流

活動内容

- ・釜石はまゆりサクラマスを用いたレシピを釜石湾漁協平田女性部の皆さんと開発し、上田キャンパスの学食で提供

・活動実績・

- ・・・・月 学生食堂とのミーティング
- ・5月 メニューのレシピ試作
- ・・・・月 ヒカリ食堂様にて最終試食会
- ・1月 「釜石はまゆりサクラマスのフライ」「釜石はまゆりサクラマスの塩麴焼き」の・・・種を全食堂で各・・・食提供



提供実績

- ・塩麴焼き、フライ各・・・食を販売
- ・提供日は・・・年・月・日・月～・・・日・金の予定



・・・日 木 に完売

サクラマスメニューを 召し上がった方々からの声

- ・今まで食べた学食の中では一番かもしれせん
- ・メニューが提供されている日は連日になってもつい手に取ってしまうほど大好きなメニューになりました
- ・ぜひまた釜石の特産物を盛岡でも味わえるプロジェクトを続けて欲しい
- ・上田キャンパスの学生に、水産や釜石について興味を持ってもらうきっかけになると思う
- ・学食に限らずスーパーで売られていたりレストランで売られていたりしたら食べてみたいと思います
- ・告知をもう少し早くしてほしい。もっと宣伝すべき！

広報活動



・・・・・・様に依頼し作成していただいた学内掲示用ポスター

成果物

- ・アンケートに寄せられた召し上がった方々からの声
- ・パンフレット（購入者に配布）



今後の展望

- ・今回提供に至らなかったメニューの改善・提供
- ・釜石特産の他魚種を用いた新メニューの開発
- ・上田キャンパスの学生との更なる交流・3年生以下のメンバー確保

SNSはこちら

当団体は来年度以降も活動が続いていく予定です。活動内の様子は・・・にて紹介しておりますので、ご興味を持っていただけた方はぜひご覧ください！



・・・・・・

・

・・・・・・

三陸委員会ここより

発表者：赤田周弥、伊藤康介、東田健志

三陸委員会ここよりとは？

- ・コミュニティ支援、お祭り協力、防災普及活動、三陸地域での震災学習など様々な活動を行っているサークル
- ・「ここより」という名前には、「心に寄り添って」活動していきたいという意味と、「ここから」進んでいこうという意気込みが込められている



当委員会公認マスコットキャラクター「さんりくん」
岩手の形をした顔で、背中に三陸を背負う頑張り屋さん。得意なことは漁業口癖は「ボクのお友達になってよ〜」春先になると目撃証言が増え、春の風と共に大学に出没する。

活動カレンダー（R6年度）

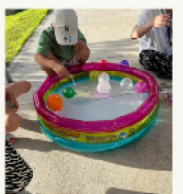
6月	9日	新メンバーの加入&歓迎会
	23日	震災学習
	29日	前期研修旅行（宮古市）
8月		研修旅行ポスターを県立図書館エールームに展示
9月	7日	南青山アパートで夏祭りを主催
10月	13日	ボランティアに参加（陸前高田フレスコ体験会）
	20日	山田の醤油を使ったベビーカステラを学祭で販売
11月	7日	三送会&新体制発足
	25日	フレスコボールを分サークル化 →フレスコボール同好会AMENIMOMAKE'S 誕生
	30日	後期研修旅行 1日目（陸前高田市）
12月	1日	後期研修旅行 2日目（気仙沼市）
2月	11日	大阪万博 復興庁展示記念イベントに登壇
3月	8日	陸前高田で光ノ碑スタート
	11日	盛岡駅で灯来イベントを主催

南青山アパート夏祭り

- ・場所
南青山アパート集会所
- ・実施目的
南青山アパートでのコミュニティ支援活動
→アパート内外の人のつながりを作るきっかけづくり
アパートの住人の方々に震災被害や宮古市の現状を報告
→沿岸地域からの避難者に三陸の情報を共有

- ・実施内容
- 1. 輪投げ
- 2. ボウリング
- 3. ヨーヨー釣り
- 4. ビンゴ大会
- 5. ポスター展示

- ・成果
子供からお年寄りまで 幅広い世代の方が集まり、合計30人ほどが参加して大盛況に終わる
テレビ岩手による取材も入る
アパート周辺に住む地域住民の方々も参加し、アパート内外のつながりづくりに貢献



研修旅行

- ・概要
年に2回（前期、後期）、震災学習と三陸地域の魅力発見をテーマに三陸地域を訪れるイベント
当団体の考え方『ここよりの木』の「知る→学ぶ」の段階
- ・前期研修旅行(宮古市)
たろう観光ホテルでの震災学習、浄土ヶ浜での魅力発見
いかせんべい焼き体験による文化体験
- ・後期研修旅行(陸前高田市・気仙沼市)
高田松原津波復興祈念公園・気仙中学校パークガイド(陸前高田)、東日本大震災遺構・伝承館(気仙沼)での震災学習、だいわフルーツパーク(陸前高田)、ないわん(気仙沼)、シャークミュージアム等での魅力発見
- ・旅行後の取り組み
・研修旅行で学んだことをポスターにまとめて、盛岡市内4カ所で展示(南青山アパート、県立図書館、しえあハート村、T O V L A B)
・SNSで三陸地域の魅力発信や震災学習発表の投稿
→『ここよりの木』の「考える→実行する」の段階



後期研修旅行の様子

灯来 / 光ノ碑

当団体では東日本大震災慰霊追悼イベントとして
3月11日、盛岡駅前滝の広場にて「灯来」を主催
3月8日〜11日、陸前高田にて「光ノ碑プロジェクト」に参画



SNS





卓球でつながる!

岩手大学卓球部



活動目的

卓球を軸に、地域の様々な世代の人が交流し、健康的で活気のあるコミュニティをつくる。

活動報告

1. 卓球を通じた地域社会の活性化

2024年度
卓球バレー指導者
資格取得者

16名

2024年度
開催イベント
合計

12回

「卓球バレーは
たのしい」
と回答した参加者

99%

イベントでは中学生、大学生、高齢者など対象を分けた体験会や地域のパブリックスペースなどでの体験会を実施。対象を分けた体験会に加え、今年度から学生や高齢者など異なる年齢層を対象とした体験会を組み込んだ。

卓球バレーを通じたインクルージョンの推進において、対象を分けた体験会や地域のパブリックスペースを活用した活動は、多様な成果を生み出した。異なる世代間での体験会を組み込むことで、多世代間の相互理解や協力関係が育まれる場としても機能した。対象を分けた体験会や多世代交流を取り入れた体験会は、それぞれの年齢層や背景に応じた個別の成果をもたらすと同時に、地域全体の共生意識を高める取り組みとして大きな可能性を示している。

これらの実績を基盤に、さらなる普及活動を行っていききたい。

2. 高齢者と若者の交流の促進

昨年度の活動では、高齢者との交流の機会を多く作ることができなかった。しかし、今年度の活動の成果として、昨年度に引き続き栗石駅前町内会様とのコラボに加えて、紫波町社会福祉協議会様、山岸老人福祉センター様とのコラボのイベントを開催することができた。3つのイベントを通して、世代を超えて様々な活動を通じたコミュニケーションを図り、互いの経験や知識を共有することができた。特に、高齢者の貴重な経験や知恵に触れることができ、若者にとって大きな学びとなった。また、高齢者も若者との交流を楽しんでおり、孤独感の軽減や社会参加の促進につながったと考えられる。また、課題としては、私たちの高齢者との積極的な交流が見られなかったことだ。高齢者との交流は、社会の多様性を尊重し、共生を図る上で不可欠な要素であるため、より積極的な取り組みが求められる。高齢者との積極的な交流を促進するために、交流の機会を増やすことが必要だと感じた。さらに、イベントの内容や形式が高齢者にとって適切であったかどうかについて評価が不十分であった。高齢者の興味関心に合わせたプログラムの提供や、イベントの雰囲気づくりが必要である。今後は、より高齢者との交流を促進させ、彼らの声に耳を傾けながら、楽しいと感じるイベント作りが重要であると考えられる。

3. 健康増進・生活習慣の改善

「卓球バレーは
けんこうてきだ」
と回答した参加者

95%

昨年度に引き続き、今年度の活動はユニバーサルスポーツである卓球バレーの普及活動が主な活動になった。この活動の成果として、多くの参加者がスポーツを通じて健康増進や生活習慣の改善を実感した。卓球バレーのユニバーサルスポーツという特性を生かし、身体的な制約を超えて活動できることに喜びを感じた参加者も多く見られた。

★活動フォトギャラリー★

栗石駅前町内会との卓球バレー交流会



卓球バレー体験会inOGAL



山岸老人福祉センターとの卓球バレー交流会



謝辞・今後の展望

「卓球でつながる!」の活動にご協力いただいたすべての皆様、本当にありがとうございました。

1年間の活動を通して地域の皆様と交流し、成長することができました。これからも卓球バレーを軸に、地域の様々な世代が交流し、健康的で活気あるコミュニティを作ることを目指します!

今年度の開催イベント

- 6月 6日 卓球バレー指導者講習会@岩手大学
- 8月 卓球バレー体験会@学びのTOMO(計4回)
(青山教室、上田教室、都南教室、河南教室)
- 10月12日 卓球交流会@盛岡体育館
- 10月14日 栗石駅前町内会との卓球バレー交流会
- 12月10日 卓球バレー体験会inTOVLAB
- 12月10日 卓球バレー体験会inOGAL
- 12月18日 山岸老人福祉センターとの卓球バレー交流会
- 1月17日 紫波町社会福祉協議会との卓球バレー交流会
- 3月 1日 盛岡市中央公民館市民企画講座
卓球バレーでつながる! ~パラスポーツ体験会~

岩手大学卓球部の紹介



メール: gandaitabletennis@gmail.com

何か質問等ありましたら

公式LINE・メール・DMにてお気軽にご連絡ください。

X(Twitter)/Instagramで活動の様子を発信しています!

ぜひフォロー&いいねで応援よろしくお願いします!

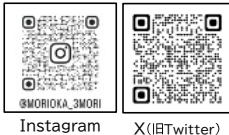


盛岡城マスコットキャラクター
「いしがききょうだい」

さんもりとは？

- 発足：2023年7月
- 名前の由来：「盛岡のぬくもりで盛り上げる」の3つの「もり」
- 構成員：岩手大学で都市計画を学んでいる学生で構成
…修士2年3名、修士1年1名、学部4年8名

- これまでの活動：「令和5年度地域課題解決共創事業『One+（ワンプラス）』採択事業」で2事業を展開。
 - ・盛岡城アート事業（アート作品の募集と展示）
 - ・石で意思を積む事業（栗石を用いたモザイクアート作成）



①盛岡城マスコットキャラクター募集事業

「盛岡城マスコットキャラクター」の原案を市内外の方から募集。盛岡城復元調査推進室、もりおか歴史文化館などの審査後、一般投票を実施。1番人気の「いしがききょうだい」が盛岡城マスコットキャラクターとなった。

8/10～9/30
市内外から**一般公募**を実施
(市内外から230作品)



10/1～10/15
関係機関による選考で
3作品に決定



10/15～10/31
一般投票を実施(1986票)

- ・オンライン投票(SNSでの発信)
- ・投票ブース設置
(TOVLAB、もりおか歴史文化館、いわて若者カフェ)
- ・イベント開催
(「肴町ハロウィンフェスティバル」への出店)



11/29～12/15
お披露目会の開催
会場：monaka前・肴町商店街アーケード内
・最優秀賞/優秀賞、特別賞、さんもり賞を設ける



盛岡城マスコットキャラクター
「いしがききょうだい」



岩手大学長賞も設定



monaka前で展示

応募者だけでなく
たまたま通りすがった方も
多くいらした

【本事業での協力機関】

- ・盛岡市 盛岡城復元調査推進室
- ・もりおか歴史文化館
- ・盛岡肴町商店街振興組合
- ・株式会社モナカ など

【本事業でのメディア取材】

- ・岩手日報
- ・岩手日日新聞
- ・盛岡経済新聞
- ・IBC岩手放送
- ・IAT岩手朝日テレビ

活動プログラム参加者の声

盛岡城跡公園は
市民の憩いの場で、
貴重な観光資源でも
あるので、
盛り上げてくださると
市民として嬉しいで
す。

盛岡を盛り上げて、
若者が愛着を持って
くれる活動だと
思います。
これからも応援
しています。

学生さんが**地元の
魅力**を発掘、発信して
くださって、
私も勉強になり、
励みにもなります。

今年度のテーマ

- **活動プログラム名**
盛岡城跡公園機運醸成プロジェクト
- **活動目的**
 - ・盛岡市民に対する盛岡城跡公園への興味関心の向上
 - ・盛岡城跡公園が持つ魅力を再発見する機会の創出
 - ・市民と共に事業を行うことで、盛岡市民が持つ「ぬくもり」を可視化
- **関係機関**
盛岡市公園みどり課、盛岡城復元調査推進室、もりおか歴史文化館、盛岡市肴町商店街振興組合、城跡公園周辺の教育機関や商業施設などの方々にご協力いただいた。

②盛岡城跡謎解き作成事業

盛岡城跡を学びながら現地を楽しむことができる謎解き冊子を作成。謎解き作成のために市民を交えたワークショップを企画し、企画段階から市民を巻き込むことを目指した。

9/3
「盛岡城の魅力进行」
～盛岡城跡謎解き事業に向けた**ワークショップ**～
会場：もりおかという星で
参加者：計19名(一般8名、オブザーバー5名、当会メンバー6名)
内容：盛岡城跡の概要説明、盛岡城跡での思い出の語り合い、謎解き問題の実践



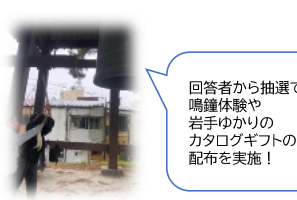
9～10月
謎解き問題の作成
盛岡城跡にまつわる内容を盛り込んだ
謎解き問題をメンバー自ら作成。
計6問を作成。



10/26、11/2
謎解き問題冊子の**配布イベント**
会場：盛岡城跡公園
・276名の市民の方へ配布
・老若男女問わず、様々な方に
ご参加いただいた



11/2～12/8
謎解き問題冊子の**常設設置**
・城跡公園周辺の教育機関や
商業施設に配架した



回答者から抽選で
鳴鐘体験や
岩手ゆかりの
カタログギフトの
配布を実施！

【本事業での協力機関】

盛岡市 盛岡城復元調査推進室、盛岡市 公園みどり課、もりおか歴史文化館 など

成果と展望

- 若年層をはじめとした普段は盛岡城跡公園のことをあまり考える事がない世代、盛岡に住んでいない人に対して盛岡城について考えてもらうきっかけを作ることができた！
- 盛岡城跡公園を媒体に行政や市民の方々、本プログラムにかかわっていただいた方々と交流できた！
- マスコットキャラクターや謎解き問題が基礎となり、今後も盛岡城や盛岡城公園が持ち上がってくれと嬉しい！

E=Wind Project

背景

普段の生活では発電を意識する機会が少ない。学生環境団体EMSCを有し、かつ生活の場に近い岩手大学は、エネルギー問題と暮らしを密接に結びつける拠点となり得ると考えた。学生が主体となりキャンパス内で再エネ発電をおこなうことで、エネルギー問題を身近に感じてもらうことを期待する。

岩手大学

環境団体を有していて
省エネ意識が高い

消費する場である暮らし
に近いまちなかにある

環境やエネルギーと暮らしを結びつける拠点

目的

岩大キャンパス内に風力発電を設置し、岩大生や地域の方々が実体験を通して再生可能エネルギーについて学ぶ場にする

垂直軸型風力とは

風車の回転軸が地面に垂直な風力発電の種類。

Ex) ジャイロミル型、パドル型、サボニウス型...
プロペラ型に比べ、必要なスペースが少ない、騒音が少ないなどの利点がある。

ジャイロミル型
(揚力型)



図2 ジャイロミル型風車
<https://www.mhi.co.jp/energy/001123.php>

パドル型
(抗力型)



図3 パドル型風車

展望

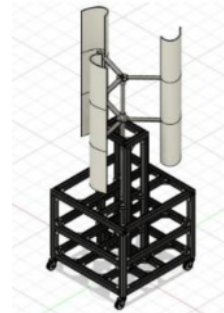
目標：図書館壁グリーンカーテンの自動給水装置への電力供給

→ 安定した発電 & 学内で発電・利用・発信

活動内容

羽根設計・作製

3Dプリンターを使って設計・製作をおこなっている。今年度は2種類の風車を製作し、発電効率の向上や軽量化を目指した。



環境フェスティバル

盛岡南イオンでおこなわれた環境イベントに参加。クイズを通し、多くの方にカーボンニュートラルについて知って頂いた。



いわてカーボンフリーアクション

岩手大・県立大・富士大が大学を超えて連携し、脱炭素化に向けライフスタイルの転換をZ世代を中心とした県民に訴えるプロジェクトチームに参加。



製作した風力発電機を使い、風の力を電気に変える様子や単3電池との発電量の違いを見て頂いた。高校生の皆さんはとても真剣な様子で紹介を聞いてくださり、環境に対する意識の高さを感じられた(出前授業)。

- ・出前授業(久慈東高校、山田高校)
- ・SDGsフォーラム(滝沢) など

各イベントの様子は

- ・IATのニュース(Iチャンネルいわて、ワイドスクランブル)
- ・番組(いわてにSDGsあると思います)などで紹介された。

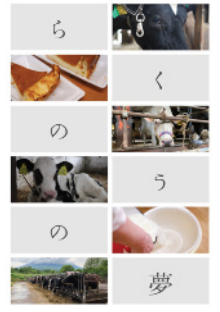
エコプロ2024

東京でおこなわれた環境イベントに出展。他大学や企業との交流を通し、活動成果を発信した。

らくのうの夢活動報告

海上晴香、阿部晶、今井悠人

及川夏歩、工藤流華、栗城瀬菜、鈴木小麦



らくのうの夢って？

・設立4年目

・活動目的；岩手県の酪農家さんと、乳製品が好きな人同士がもっと身近になれるような活動をしています！

岩手県の酪農の特徴として、全国で1番牧場あたりにいる牛の頭数が少ないことが挙げられます。(全国平均108頭 岩手平均52頭)

頭数が少ないからこそ、綺麗な景観が残っていたり、放牧を行いながら一頭一頭のことを家族のように大切に育てていたり、

日本に1%もないジャージー牛を飼育していたり、様々なこだわりを持って飼育しているところをもっと伝わったら、

酪農家さんも、伝わった人もハッピーになるのではないかと思います。活動をしています。

今年度の活動

地元生乳を使用したチーズケーキ販売

with 小冊子&映像



佐藤牧場の生乳を使用したたまやま温泉Labさんのフロマージュブラン（チーズ）を使用して、よいち・文化祭での販売を行いました。

販売時にみてもらえるよう小冊子や映像を作り、佐藤牧場さんやたまやま温泉Labさんの紹介をしました。



材木町ヨイチ編



ヨイチの販売場所
会話できる雰囲気楽しかった！



小冊子の1ページ
お子さんが楽しんで
読んでくれました

文化祭編



ポスター



映像

どうやってお客さんが
ケーキだけではなくて
酪農家さんにも目がいってくれるかな？
とみんなで考えを凝らしました



メンバーの 活動振り返り

「経験にまよわない」
この活動を経験したらこそ得られた大事な言葉です。
名えたりして映像を作成しても見てもらえない雪、在々思うようにいかないことが多かったです。どうすれば良かったのか答えが出ていないですが、関わってくれた皆様のことを忘れずいつか答えを見つけられたらと思います。

「周りに助けられている」
活動を通して学んだことは本当に沢山ありますが、1番感謝したのは、周りに助けられていることだと思います。この活動は、生産者さんをはじめ、メンバーやNEXTSTEP工房の方々など多くの人々の助けを借りて成り立っています。そのことを忘れずに、周りの人々に感謝を伝えるような活動にしていきたいです。

振り返り

地元生乳を使用したチーズケーキ販売

with 小冊子&映像

	チーズケーキ	小冊子	映像
6月	24個/30個	10冊	
7月	28個/30個	15冊	
8月	欠席		
9月	欠席		作成
10月	30個/30個	30冊	5回
11月	製造ミス	15冊	3回

陸前高田・米崎町 観光マップ作ろうプロジェクト



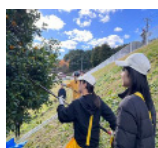
岩手大学NEO
千葉陽世、本間陽葉里

NEOとは

一昨年発足した陸前高田市に通う学生団体です！
「イタルコロ大学」という地域と大学をつなぐマッチング事業を通して地元の方のニーズに応える活動をしています。「自分なりの陸前高田との関わり方を見つける」をコンセプトに、学生が主体となってプロジェクトに参加したり、自ら地域の課題点を見つけ、活性化のために企画を考えたりしています！



8月 うごく七夕まつり
山車の飾りつけを手伝ったり、山車を引っ張ったりしました！



11月 北限のゆず狩り体験
ハサミの使い方に苦戦しながらもたくさん収穫できました！

活動のきっかけ

米崎町は陸前高田市中心街の東側に位置する街です。「この町は人口・事業所の数ともに高田町に次いで2番目に多いけれど、まだまだ知名度が低く、もっと多くの方にしてもらいたい」というニーズがイタルコロ大学にあげられ、この活動はスタートしました。



このニーズをあげてくださったのは「民宿 沼田屋」の女将である菅原ひとみさん。米崎に対する熱い気持ちに応えるべく、私たち岩手大学NEOから2人と、早稲田大学の陸前高田プロジェクトに所属する学生4人が参加し、昨年6月からミーティングを重ね、8月には現地での取材を行いました。



菅原ひとみさん

活動内容①

〈2024/06～2025/03〉

2024年

6月 初回MTG
取材場所挨拶
第2回MTG

7月 第3回MTG

第4回MTG

8月 現地インタビュー

第5回MTG

9月 第6回MTG

現地インタビュー

10月 第7回MTG

第8回MTG

11月 第9回MTG

12月 第10回MTG

第11回MTG

2025年

1月 第12回MTG

第13回MTG

店舗への確認作業

2月 第14回MTG

第15回MTG

第16回MTG

3月 第17回MTG

お披露目会

- ・ マップの構成
- ・ 質問事項の決定
- ・ 店舗へのアポ取り
- ・ 現地入りの役割分担

- ・ インタビュー内容文字おこし
- ・ 文章作成
- ・ 写真選定

- ・ マップ作成
- ・ NEXTSTEP工房へ申請、登録
- ・ マップタイトル決定
- ・ チャート指標決定

- ・ 写真キャプション作成
- ・ 文章、チャート確認
- ・ 表紙の作成

- ・ 修正
- ・ 印刷会社へデータ入稿
- ・ お披露目会計画



早稲田大学陸前高田プロジェクト
木内晃太郎、塩山祈、中川佳、松田由希菜

活動内容②

《マップ作成にあたって》

「探せ！あなたの推し店主MAP」と題し、米崎町の飲食店マップと、店主さんに焦点を当てた紹介文である「店主図鑑」なるものを作成しました。
マップ面では食べ物のイラストや店主さんの顔と名前を配置し、店主図鑑面では人柄を表すチャートの作成や、硬くなりすぎないようなキャプションや文章づくりなど様々な工夫を凝らしました！



民宿 沼田屋

《インタビューの様子》



産直はまなす 陸前高田

8月に2泊3日で各店舗へのインタビューを行いました！早稲田大学の学生と「仙華園」さんへご飯を食べに行くとともにインタビューも開始。各大学で手分けをしながら13店舗を回りました！
「店主さん」に着目し、お店のことだけでなく趣味や人柄も分かるようなマップを作成するため、和やかな雰囲気を楽しみながら対話することを心掛けました。山と海に囲まれている米崎町産の食を堪能しつつ、地元への愛や今後の展望をお聞きして、さらに米崎の魅力を発信していきたいと強く思いました！

今後の予定

《お披露目会》

岩手大学NEOと早稲田大学陸前高田プロジェクトは、3月14日(金)に米崎町のコミュニティセンターでマップの作成に協力して頂いた店主さんをお招きし、このマップのお披露目会を行う予定です。お披露目会のあとは、食事も予定しています。これらを通して、店主さん同士のつながりを深めていくとともに、私たち学生も交流を深めていきたいです。

表面



表面



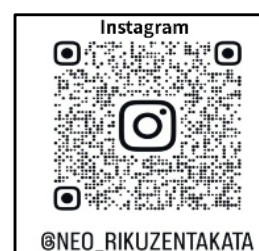
《マップ第2弾について》

今回のマップ作成では、「店主さん」に焦点を当てた、他では見ることのできないマップを作ることができました。しかし、米崎町にはこのマップでは伝えきれなかった魅力がまだまだたくさんあります。そこで、第2弾として、農園など飲食店以外のお店も紹介する新たなマップを作る予定です！

SNSもやっています！



X(旧Twitter)



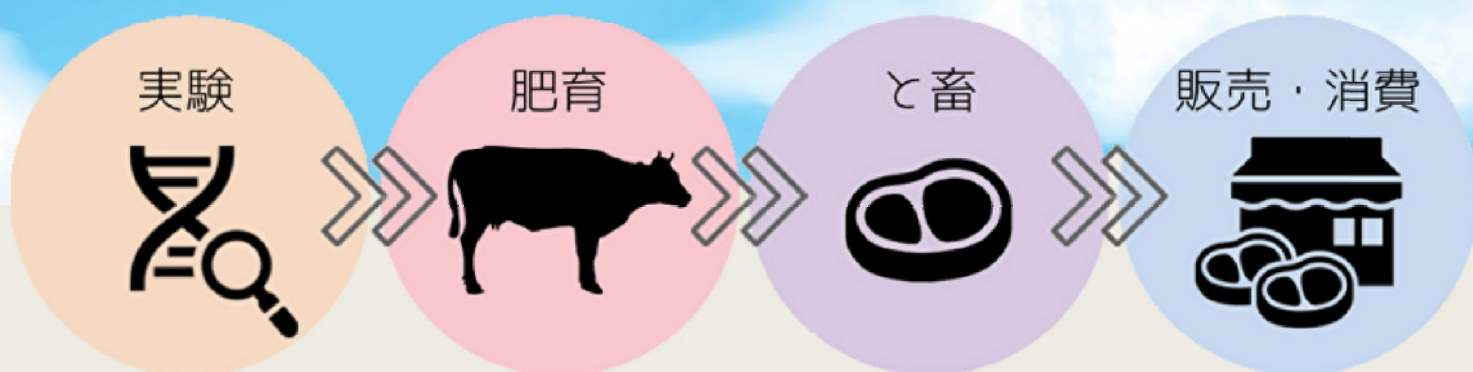
Instagram

@NEO_RIKUZENTAKATA

普段のミーティングや訪問時での活動の様子などをお届けしています！今年度はNEO独自の活動や他団体との活動も検討中です。フォローお待ちしております♪

教えて!ジャージーさん

～実験牛から次世代の畜産へ～



肉牛の育成から消費までを学生が主体となって追うことで、畜産業をはじめ、流通全体を学ぶことを目的としたプロジェクト。岩手大学で飼養されていたジャージー種実験牛を用いて、菊池牧場さんで放牧・肥育飼育をすることにより、持続可能な循環型畜産の実証を目指しています。

菊池牧場 さんについて

夏山冬里方式の酪農が営まれています。
牛乳だけでなく、お肉の加工・販売も行っており、牛乳は毎週自分たちで配達したり、手書きの「菊池牧場通信」を発行したりと、生産者の存在が身近に感じられる牧場です。

<http://kikuboku.com/abouts/>
〒028-4421 岩手県岩手郡岩手町一方井1-256



今までの活動 について

11月24日（日）に菊池牧場さんにて、メンバー7人がソーセージ作りを体験させていただきました。
菊池さんがその日の気温に合わせて材料を練り込んだ後、私たちは腸詰めと包装を体験しました。
特に腸詰めは破れたり、空気が入ったりと苦戦しつつも、満足のいくソーセージを作ることができました。
菊池さんがこだわっている添加物に頼らないソーセージはジャージー牛の旨みが口いっぱいに広がり、スパイスの香りが鼻から抜けてとてもおいしかったです！





+ DESIGN

活動報告

1

+ DESIGNとは

「学生による、学生目線でのデザイン」で学内外の組織・企業の解決を手助けする、岩手大学内のデザイン集団です。

企業様、地域社会とともに活動する中で、課題解決能力やビジネススキルを大学生のうちから育むことで、卒業後も社会で活躍できる、VUCAの時代を生き抜く人材育成にも力を入れています。

2

本年度のテーマ

岩手県内のデザイン価値の向上

前段階として、県内企業のデザインの実態を把握するための調査活動

(もう1つのテーマ「課題解決人材の育成」は、本業が多忙であったため本年度は断念)

3

目的

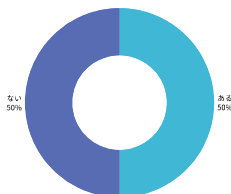
人口減少、都市部への人口流出が進む県内において、地域や産業・企業の魅力を可視化し、実装していくことは急務の課題です。それらの解決のためには、クリエイティブにとどまらない、生活者の体験やコミュニケーションなども含んだ岩手県内の「デザインの価値」を高めることが必須です。県内企業や地域団体にデザインに関する現状を調査することで、大学生のデザイン集団である私たちがその課題解決の手助けをするにあたりできることを検討し、発信していくことが目的です。

4

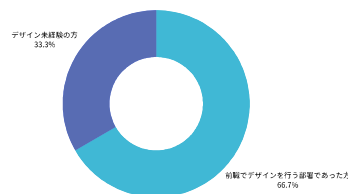
アンケート結果

弊社にゆかりのある花巻市・釜石市の企業・団体にGoogleフォームにて調査。一部抜粋。
(有効回答数：14件)

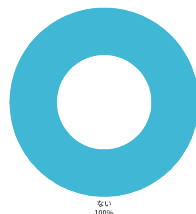
Q.会社や商品の宣伝において、デザインを考える組織などがありますか。



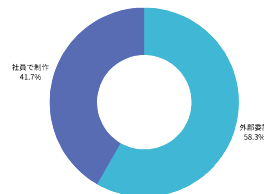
Q.(デザインを考える組織などがあると答えた方)デザインを考える組織内の社員の方はどのような属性ですか。



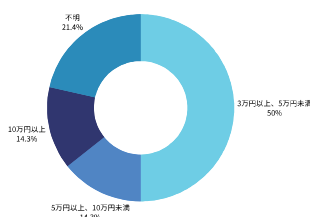
Q.(デザインを考える組織などがあると答えた方)組織内で外部講師を呼んだ講習やe-ラーニングなど、デザインの学習の機会がありますか。



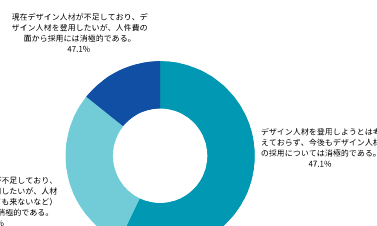
Q.デザインを考える組織がない場合、デザインはどのように制作していますか。



Q.外部にデザインを依頼する場合、デザインに対して支払うのに妥当だと思う金額はどれくらいですか。
(ポスターデザインの制作の場合。印刷代は除くデザインのための料金)



Q.社内のデザイン人材の現状を今後の方針について教えてください。



5

分析と今後の展望

- デザインは外部委託且つデザイン人材を登用しない/できない方向の会社は、デザインワークショップにてアイデア出しを学びたいという回答が多く、「自社にはないデザイン技術やクオリティを補ってほしい」という選択肢に強く同意する傾向。
➡この現状から、そういった会社は、自社でアイデアを考えて、そのアイデアを外部のデザイナーにブラッシュアップしてもらいつつ、形にしようという形態を取る/好ましく感じているのではないかと。
- 人材不足(募集をかけてもこないなど)や人件費の面などから、デザイン人材の採用には消極的であったり、そもそもデザイン人材の登用には消極的であったりという回答が多い。
- 若者のアイデアを取り入れたデザインを制作してほしい企業が多いものの、一方で自社の要望通りのデザインを提供してほしいと思う企業も多く、デザイン制作の際にターゲットに合うデザインと企業の要望にギャップが生じる可能性がある。

お問い合わせ先

+ DESIGN (プラスデザイン)

岩手大学理工学部附属 ものづくりエンジニアリングファクトリー起業家支援室

〒020-8551 岩手県盛岡市上田4丁目3-5

Mail : plus.design.iwate@gmail.com TEL : 019-621-6407

https://iwate-u-gakunai-company.jimdo.com